「ふね遺産」（推薦様式）：A4 一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

No.(*)	内容	備考
1. 対象物・資料の名称・所属または所有者	対象物：南極観測船「宗谷」 所有者：船の科学館	
2. 対象物の作成・存在時期	1936 年（昭和 11 年）10 月 31 日にソビエト向けの耐氷貨物船として建造された。1956 年（昭和 31 年）から南極観測船として使用された。現在、東京港入口の船の科学館前にほぼ現役当時のままで係留保存されている。	
3. 現状（写真添付）	船体及び船橋など船内はほぼ南極観測船就航当時のままである。 船体 船橋	
4. ふね遺産認定基準の該当項目(**)	【認定対象】 (1) 人や物資を輸送する船舶のみならず、作業船、艦艇、実験船、調査船、海洋構造物などを含む浮体構造物全般 【認定基準】 船舶海洋技術の発展に対して； (1) 独創的または新規の技術を与えたもの 平和・社会・文化・経済・生活・教育に対して； (7) ふね関連技術と社会・文化の関係上重要な、初めて、または最古のもの	現存船
5. 歴史的・工学技術的意義	（１）本来の耐氷船としての船体構造を生かし、南極観測船としての耐氷性、砕氷性を持つ船体構造になっている。特に船首部、船尾部を特別な構造とし、復原性や船体動揺を考慮した船側部やバルジ、減揺タンク、分割型のビルジキールを備えている。 （２）海上保安庁の巡視船としても氷海中での漁船の救助に貢献した。 （３）その後に建造された南極観測船の嚆矢として多くの示唆を与えた。	
6. 参考資料・文献（本表に収まらない場合は別途添付する）	（１）庄司邦昭：海事遺産としての南極観測船宗谷の特徴について、日本船舶海洋工学会講演会論文集第 34 号、2022 年 5 月 （２）写真で見る『宗谷』の生涯、世界の艦船、NO.318、1983 年 2 月　以上添付 （３）南極観測船宗谷：船の科学館資料ガイド３、船の科学館編、2003	

(*)　No.は学会で記載します。

(**) ふね遺産認定基準の【認定対象】と【認定基準】の項目の内、該当する最もふさわしい項目一つを、文頭の番号で記載して下さい。